



# 狭心症・心筋梗塞について

内科医師 関根 正明

狭心症・心筋梗塞をあわせて虚血性心疾患とよび、日本人の死因の2位にあげられる重要な病気です。因みに1位はがん、3位は肺炎です。(平成27年)

その症状は、心臓の周囲の血管が何らかの原因で細くなったり詰まったりして、心臓の筋肉が必要な酸素を得られなくなると、心臓が「悲鳴」をあげて患者本人にその状態を「胸痛」として、知らせようとする働きとも考えられます。

典型的な症状としては、冬の寒い日に暖かい家の中から外に出て急に体を動かしたりすると、胸が痛んで狭心症や心筋梗塞を起こすといったことがあります。

狭心症には2種類あり、労作性狭心症・安静時狭心症とよべれます。労作性狭心症では体を動かすことなどにより心臓は働きを増やさなければいけないのですが、血管が細くなっていることにより酸素不足になって症状が出現します。安静時狭心症は睡眠など体を動かさない状態であるのに心臓の血管が痙攣して細くなり胸痛をおこすものです。狭心症の症状は原則として数分で改善します。

心筋梗塞は心臓周囲の血管がつまり極端に血液の流れが低下して心臓の筋肉が二度と働かなくなってしまう状態です。体に対する負担は狭心症よりも大きく数十分続く胸痛や不整脈やショックなど重い症状がでやすくなります。

虚血性心疾患の原因は、動脈硬化で血管の内部に油の塊(粥腫)が出来たり、血液の塊(血栓)が出来たりして、血液の流れに影響を与えることです。他に生活習慣病である高血圧・糖尿病・高脂血症・肥満なども動脈硬化を進行させることによりその原因となります。

虚血性心疾患の対策は、生活習慣病の予防治療が一番です。胸痛が起きたとき、通常は循環器病の専門医を受診してください。そして強い痛みが続いたとき、救急車を要請してすぐに、専門医・専門施設を受診してください。

